

# 第 1 章

# 概 要

注) 単位未満は四捨五入しているので、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

## 第1 人口動態の概要

青森県の平成29年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりである。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	平成29年	平成28年	対前年比	平成29年	平成28年	対前年比	平成29年	平成28年
出生	8,035	8,626	△ 591	6.3	6.7	△ 0.4	1° 05' 25"	1° 00' 56"
死亡	17,575	17,309	266	13.8	13.4	0.4	29' 54"	30' 22"
乳児死亡	18	18	0	2.2	2.1	0.1	486° 40' 00"	486° 40' 00"
新生児死亡	13	8	5	1.6	0.9	0.7	673° 50' 46"	1,095° 00' 00"
自然増減	△ 9,540	△ 8,683	△ 857	△ 7.5	△ 6.7	△ 0.8	…	…
死産	173	183	△ 10	21.1	20.8	0.3	50° 38' 09"	47° 52' 08"
自然死産	81	81	0	9.9	9.2	0.7	108° 08' 53"	108° 08' 53"
人工死産	92	102	△ 10	11.2	11.6	△ 0.4	95° 13' 03"	85° 52' 56"
周産期死亡	32	26	6	4.0	3.0	1.0	273° 45' 00"	336° 55' 23"
妊娠満22週以後の死産	21	20	1	2.6	2.3	0.3	417° 08' 34"	438° 00' 00"
早期新生児死亡	11	6	5	1.4	0.7	0.7	796° 21' 49"	1,460° 00' 00"
婚姻	5,122	5,135	△ 13	4.0	4.0	0.0	1° 42' 37"	1° 42' 21"
離婚	2,092	2,164	△ 72	1.64	1.68	△ 0.04	4° 11' 15"	4° 02' 53"

区分	平成29年	平成28年
合計特殊出生率	1.43	1.48

### （全国）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	平成29年	平成28年	対前年比	平成29年	平成28年	対前年比	平成29年	平成28年
出生	946,065	976,978	△ 30,913	7.6	7.8	△ 0.2	00' 33"	00' 32"
死亡	1,340,397	1,307,748	32,649	10.8	10.5	0.3	00' 24"	00' 24"
乳児死亡	1,761	1,928	△ 167	1.9	2.0	△ 0.1	4° 58' 28"	4° 33' 22"
新生児死亡	832	874	△ 42	0.9	0.9	0.0	10° 31' 44"	10° 03' 01"
自然増減	△ 394,332	△ 330,770	△ 63,562	△ 3.2	△ 2.6	△ 0.6	…	…
死産	20,358	20,934	△ 576	21.1	21.0	0.1	25' 49"	25' 11"
自然死産	9,738	10,067	△ 329	10.1	10.1	0.0	53' 58"	52' 21"
人工死産	10,620	10,867	△ 247	11.0	10.9	0.1	49' 29"	48' 30"
周産期死亡	3,308	3,516	△ 208	3.5	3.6	△ 0.1	2° 38' 53"	2° 29' 54"
妊娠満22週以後の死産	2,683	2,840	△ 157	2.8	2.9	△ 0.1	3° 15' 54"	3° 05' 35"
早期新生児死亡	625	676	△ 51	0.7	0.7	0.0	14° 00' 58"	12° 59' 39"
婚姻	606,866	620,531	△ 13,665	4.9	5.0	△ 0.1	00' 52"	00' 51"
離婚	212,262	216,798	△ 4,536	1.70	1.73	△ 0.0	02' 29"	02' 26"

区分	平成29年	平成28年
合計特殊出生率	1.43	1.44

注:1) 青森県の基礎人口は平成29年が1,274,000人、平成28年が1,290,000人である。

注:2) 全国の基礎人口は平成29年が124,648,471人、平成28年が125,020,252人である。

注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

# 1 出生

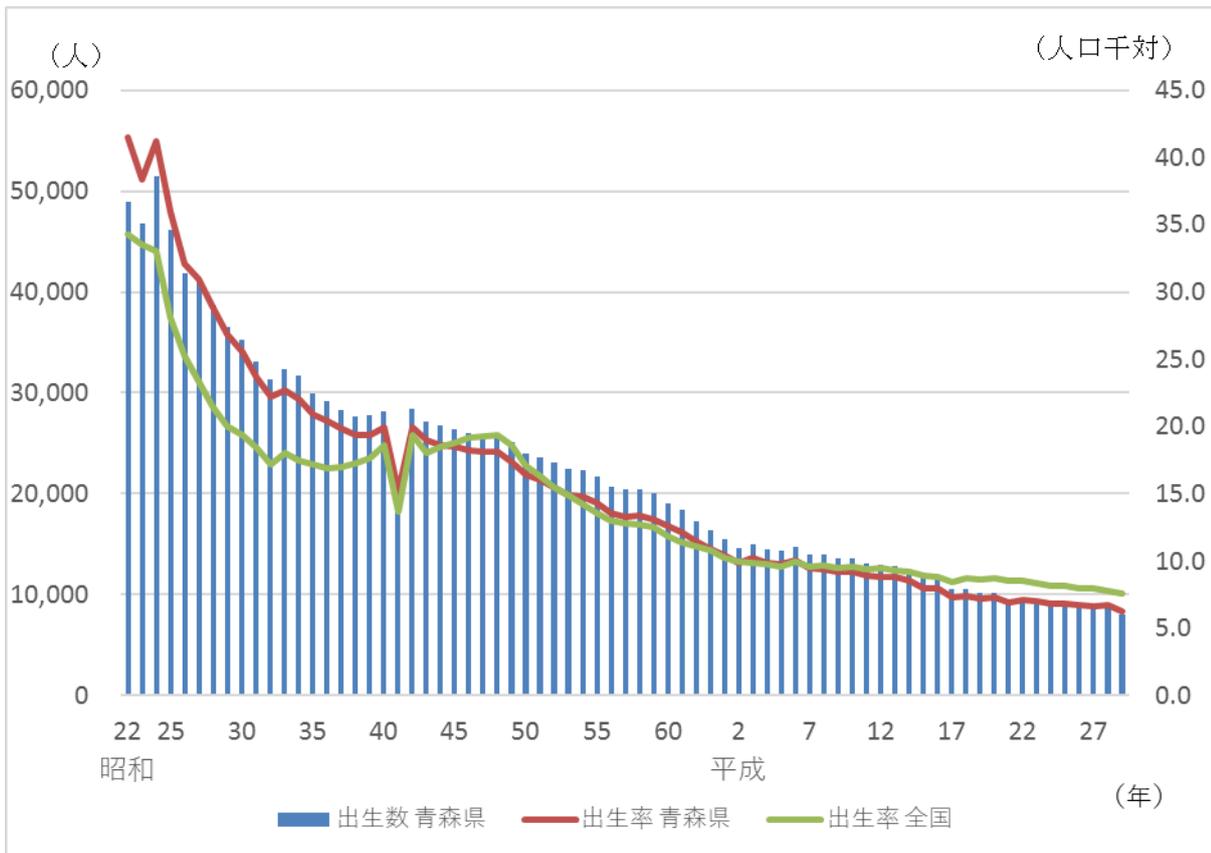
## (1) 概況及び年次推移

平成 29 年の出生数は 8,035 人で、前年の 8,626 人より 591 人減少した。出生率（人口千対）は 6.3 で、前年の 6.7 を 0.4 ポイント下回り、全国の 7.6 を 1.3 ポイント下回った。（表 1）

平成 29 年の合計特殊出生率は 1.43（全国 1.43）で、前年の 1.48（全国 1.44）から 0.05 ポイント下回った。（表 1）

年次推移をみると、年々減少・低下傾向にあり、昭和 23 年には出生数が 50,000 人を超えていたが、昭和 50 年には 25,000 人を下回り、平成 21 年以降は 10,000 人を割り込んでいる。（図 2）

図 1 出生数、出生率の年次推移



## (2) 地域別出生

平成 29 年の市部の出生数は 6,492 人、郡部は 1,543 人であり、出生率（人口千対）は市部が 6.5 で郡部の 5.4 を 1.1 ポイント上回っている。

詳細は第 2 章第 6 表に記載されているので、参照されたい。

## (3) 出生順位と母の年齢

平成 29 年に出生した子（死産を除く）が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第 1 子が 43.9%、第 2 子が 36.5%、第 3 子以上が 19.6%となっており、第 1 子と第 2 子で全体の約 8 割を占めている。（第 2 章第 8 表参照）

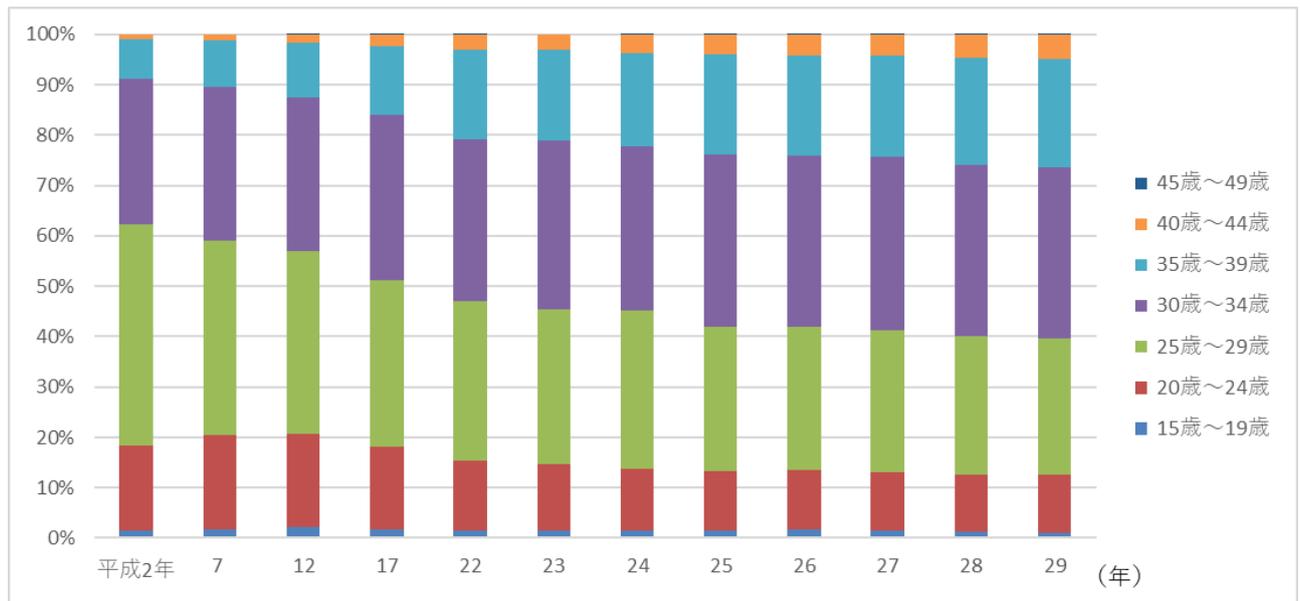
また、平成 29 年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30 歳から 34 歳が 33.9%で最も高く、次いで 25 歳から 29 歳が 27.1%となっている。（表 2）

表2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位：%)

母の年齢	平成2年	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29
15歳～19歳	1.4	1.7	2.3	1.8	1.5	1.5	1.4	1.5	1.8	1.4	1.3	1.1
20歳～24歳	16.9	18.7	18.3	16.4	13.8	13.1	12.3	11.7	11.7	11.6	11.3	11.5
25歳～29歳	43.9	38.7	36.3	33.0	31.8	30.9	31.4	28.8	28.6	28.3	27.5	27.1
30歳～34歳	29.1	30.4	30.5	32.8	32.0	33.4	32.6	34.3	34.0	34.5	34.1	33.9
35歳～39歳	7.7	9.3	10.9	13.7	17.9	18.1	18.5	19.8	19.9	19.9	21.3	21.4
40歳～44歳	1.0	1.2	1.6	2.2	2.9	3.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.5	4.8
45歳～49歳	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1

図2 母の年齢階級別出生の構成比

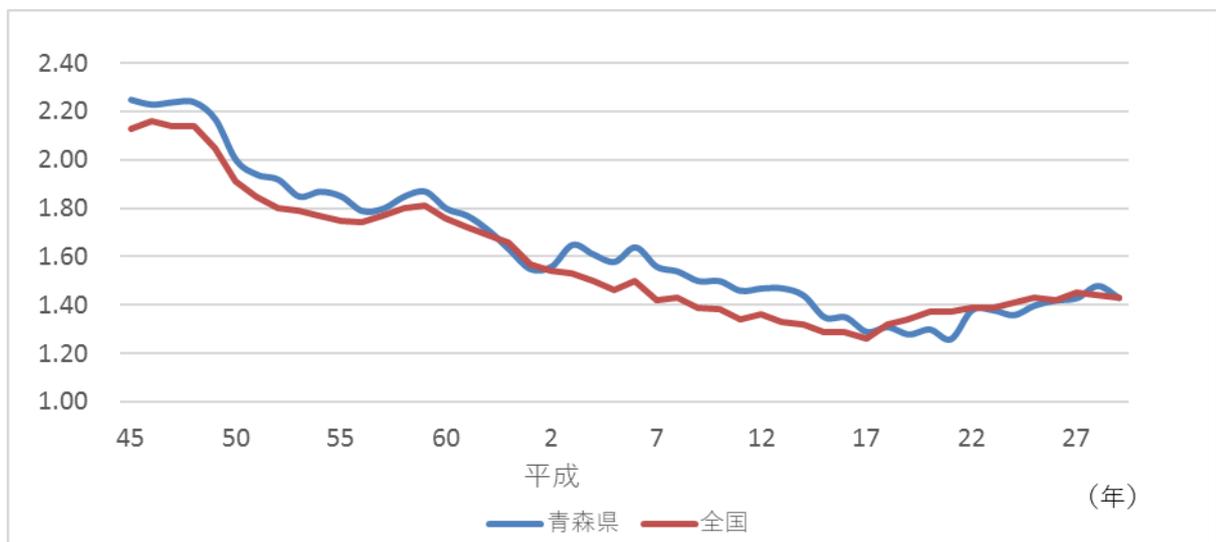


(4) 合計特殊出生率

平成29年の合計特殊出生率は1.43（全国1.43）で、前年の1.48（全国1.44）から0.05ポイント下回り、全国と同率となった。（表1）

年次推移をみると、年々低下傾向にあり、平成18年から全国平均を下回って推移したが、平成25年から上昇傾向に転じ、平成28年には全国平均を上回った。（図3）

図3 合計特殊出生率の年次推移



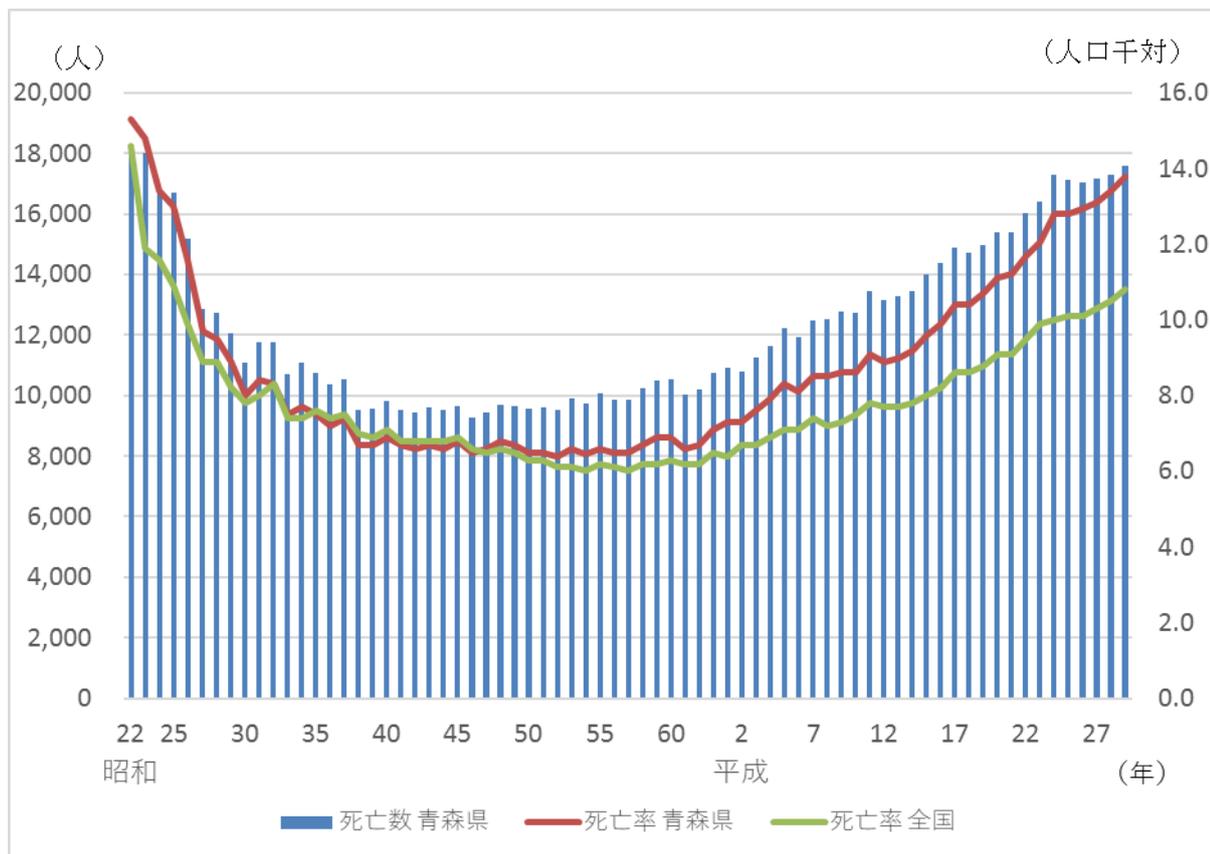
## 2 死亡

### (1) 概況及び年次推移

平成 29 年の死亡数は 17,575 人で、前年の 17,309 人より 266 人増加し、死亡率（人口千対）は 13.8 ポイント（全国 10.8）で、前年の 13.4（全国 10.5）を 0.4 ポイント上回った。（表 1）

年次推移をみると、戦後著しく減少・低下し、死亡率は昭和 33 年には 8.0、昭和 38 年には 7.0 を下回った後、横ばい傾向になったが、高齢化の進行に伴い、増加・上昇に転じた。（図 4）

図 4 死亡数及び死亡率の年次推移



### (2) 地域別死亡

平成 29 年の市部の死亡数は 12,769 人、郡部は 1,543 人であり、死亡率（人口千対）は市部が 12.9 で郡部の 16.8 を 3.9 ポイント下回っている。

詳細は第 2 章第 13 表に記載されているので、参照されたい。

(3) 主要死因

平成29年の死因の第1位は悪性新生物で、死亡数4,986人、死亡率（人口10万対）は391.4となった。第2位は心疾患で死亡数2,621人、死亡率205.7、第3位は脳血管疾患で、死亡数1,700人、死亡率133.4、第4位は肺炎で、死亡数1,407人、死亡率110.4となった。（表3）

表3 死因順位別死亡者、死亡率

（前年比較・全国比較）

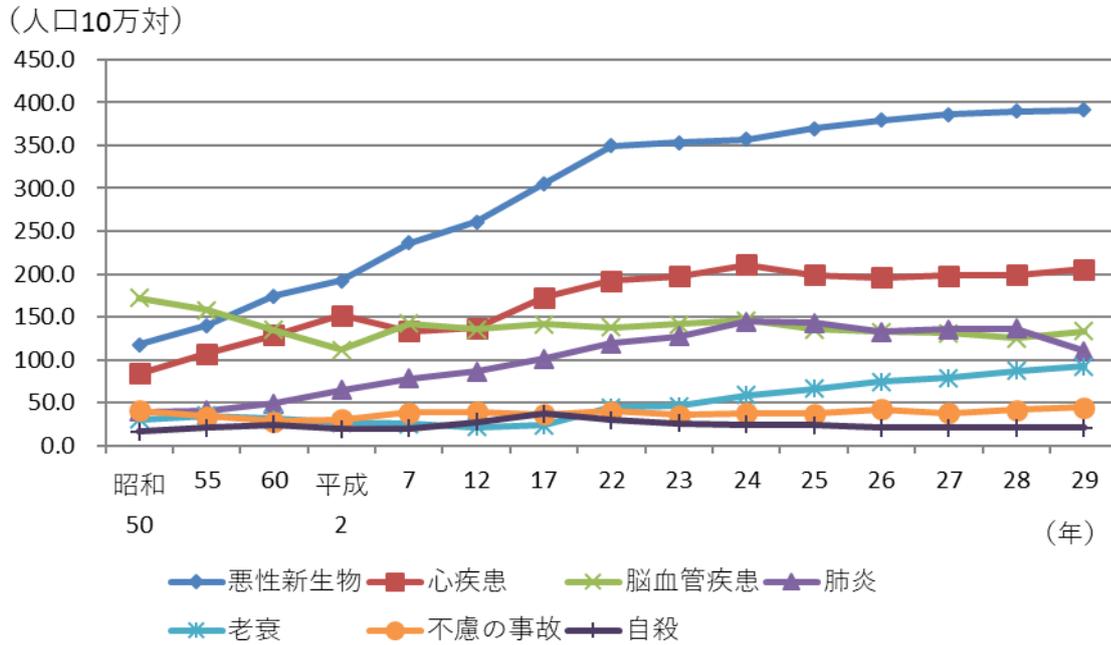
死 因	青森県						全国		
	平成29年			平成28年			平成29年		
	順位	死 亡 数	率	順位	死 亡 数	率	順位	死 亡 数	率
死 亡 総 数		17,575	1,379.5		17,309	1,341.8		1,340,397	1,075.3
悪 性 新 生 物	1	4,986	391.4	1	5,034	390.2	1	373,334	299.5
心 疾 患	2	2,621	205.7	2	2,568	199.1	2	204,837	164.3
脳 血 管 疾 患	3	1,700	133.4	4	1,610	124.8	3	109,880	88.2
肺 炎	4	1,407	110.4	3	1,759	136.4	5	96,841	77.7
老 衰	5	1,178	92.5	5	1,122	87.0	4	101,396	81.3
不慮の事故	6	568	44.6	6	539	41.8	6	40,329	32.4
腎 不 全	7	376	29.5	7	416	32.2	8	25,134	20.2
アルツハイマー病 血管性及び詳細不明の認知症	8	339	26.6	13	194	15.0	14	17,238	13.8
	9	336	26.4	10	228	17.7	10	19,546	15.7
自 殺	10	265	20.8	8	271	21.0	9	20,465	16.4

（青森県男女比較）

死 因	平成29年					
	男性			女性		
	順位	死 亡 数	率	順位	死 亡 数	率
死 亡 総 数		8,868	1,480.5		8,707	1,289.9
悪 性 新 生 物	1	2,890	482.5	1	2,096	310.5
心 疾 患	2	1,183	197.5	2	1,438	213.0
脳 血 管 疾 患	3	815	136.1	3	885	131.1
肺 炎	4	762	127.2	5	645	95.6
老 衰	6	296	49.4	4	882	130.7
不慮の事故	5	330	55.1	6	238	35.3
腎 不 全	8	189	31.6	9	187	27.7
アルツハイマー病 血管性及び詳細不明の認知症	14	118	19.7	7	221	32.7
	10	140	23.4	8	196	29.0
自 殺	7	203	33.9	17	62	9.2

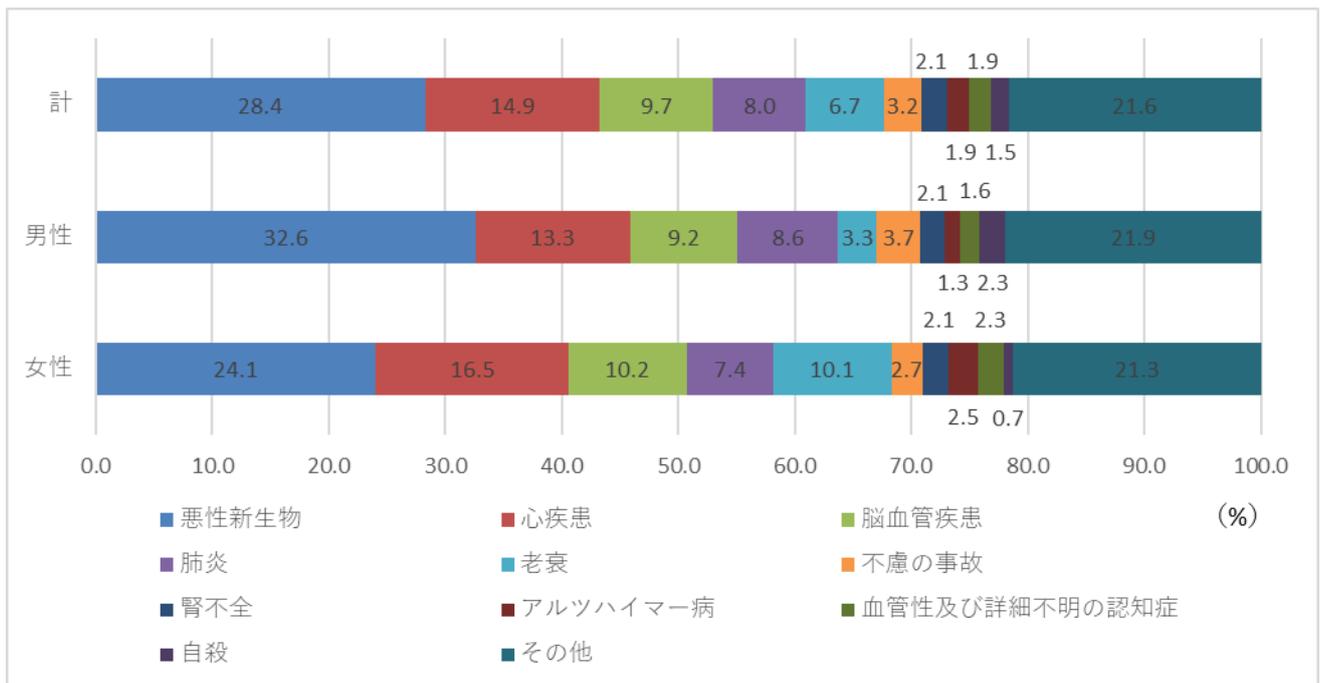
年次推移をみると、昭和50年には、「脳血管疾患」が1位だったが、昭和57年には「悪性新生物」が「脳血管疾患」を上回って1位になり、さらに昭和61年には「心疾患」が「脳血管疾患」を上回り、2位になった。(図5)

図5 主要死因別死亡率の年次推移



死因ごとの構成比をみると、悪性新生物が28.4%、心疾患が14.9%、脳血管疾患が9.7%、肺炎が8.0%と続き、これら4つの死因で全体の61.0%（前年63.4%）を占めている。(図6)

図6 10大死因の構成比



平成 29 年の年代別死因順位をみると、10 歳代、20 歳代では、自殺が死因第 1 位であり、30 歳代から 80 歳代までは、悪性新生物が死因第 1 位となっている。(表 4)

表 4 年代別死因順位、実数

(上段：死因、下段：実数)

年代	総数 (実数)	1 位	2 位	3 位
0～9歳	31	先天奇形, 変形及び染色体異常 11	周産期に発生した病態 6	肺炎 2
10～19歳	15	自殺 4	不慮の事故 3	心疾患 2
20～29歳	50	自殺 23	不慮の事故 8	心疾患 6
30～39歳	108	悪性新生物 32	自殺 29	不慮の事故 9
40～49歳	242	悪性新生物 88	自殺 35	心疾患 28
50～59歳	699	悪性新生物 289	心疾患 97	脳血管疾患 62
60～69歳	1,979	悪性新生物 926	心疾患 226	脳血管疾患 149
70～79歳	3,255	悪性新生物 1,308	心疾患 391	脳血管疾患 275
80～89歳	6,896	悪性新生物 1,781	心疾患 1,082	脳血管疾患 747
90～99歳	4,020	心疾患 734	老衰 679	悪性新生物 544
100歳～	280	老衰 108	心疾患 50	肺炎 31

### 3 乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡

#### (1) 乳児死亡

平成 29 年の乳児死亡数は 18 人で、前年の 18 人と同数となった。乳児死亡率（出生千対）は 2.2 で、前年の 2.1 を 0.1 ポイント上回り、全国の 1.9 を 0.3 ポイント上回った。（表 1）

年次推移をみると、一貫して減少・低下傾向にあり、近年も緩やかに減少・低下している。

(図 7)

死亡の原因の内訳をみると、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が多い。（表 5）

図 7 乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移

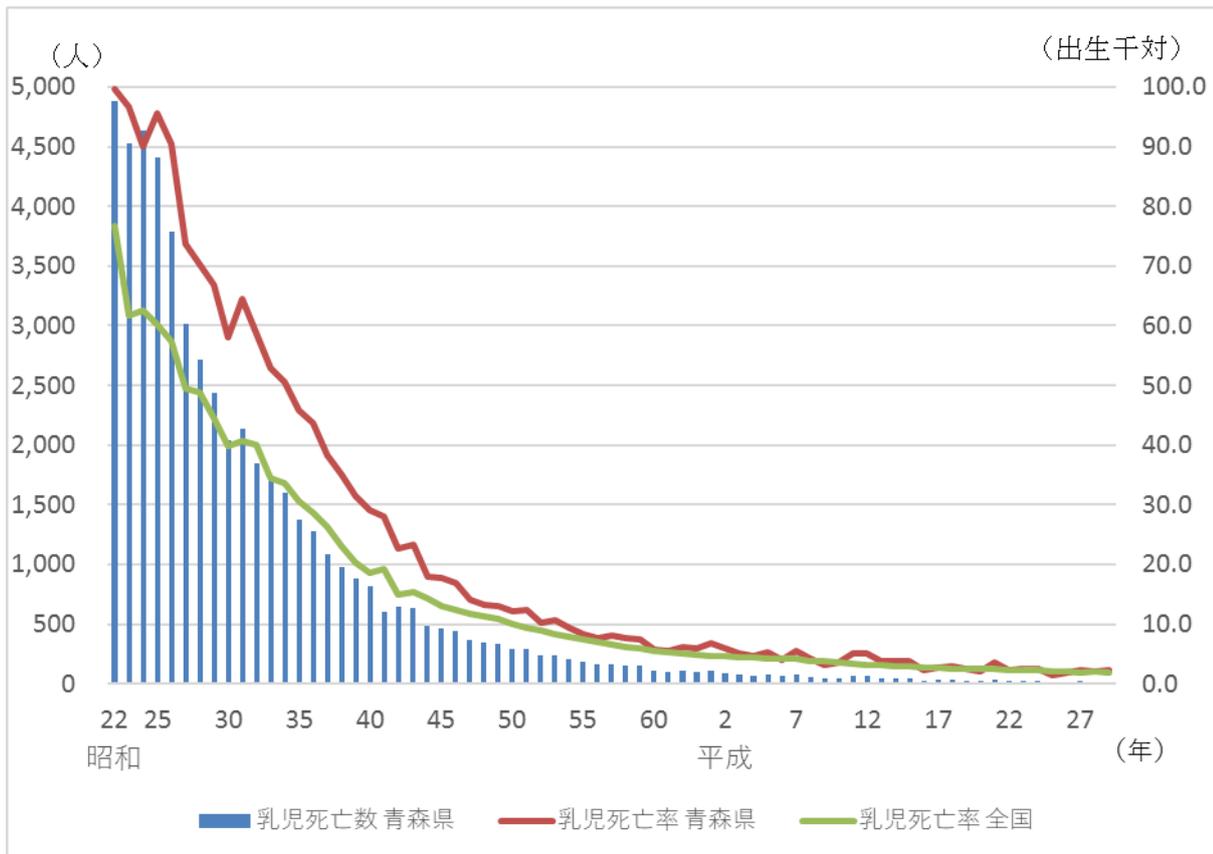


表 5 乳児死亡の内訳の年次推移

死因の内訳	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総計	23	24	14	17	20	18	18
周産期に発生した病態	6	10	4	3	7	6	6
先天奇形、変形及び染色体異常	6	7	5	8	7	4	7
乳幼児突然死症候群	2	2	2	2	1	-	-
その他	9	5	3	4	5	8	5

(2) 新生児死亡

平成 29 年の新生児死亡数は 13 人で、前年の 8 人より 5 人増加した。新生児死亡率（出生千対）は 1.6 で、前年の 0.9 を 0.7 ポイント上回り、全国の 0.9 を 0.7 ポイント上回った。（表 1）

年次推移をみると、一貫して減少・低下傾向にあり、近年も緩やかに減少・低下している。

（図 8）

死亡の原因の内訳をみると、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が多い。（表 6）

図 8 新生児死亡数及び新生児死亡率の年次推移

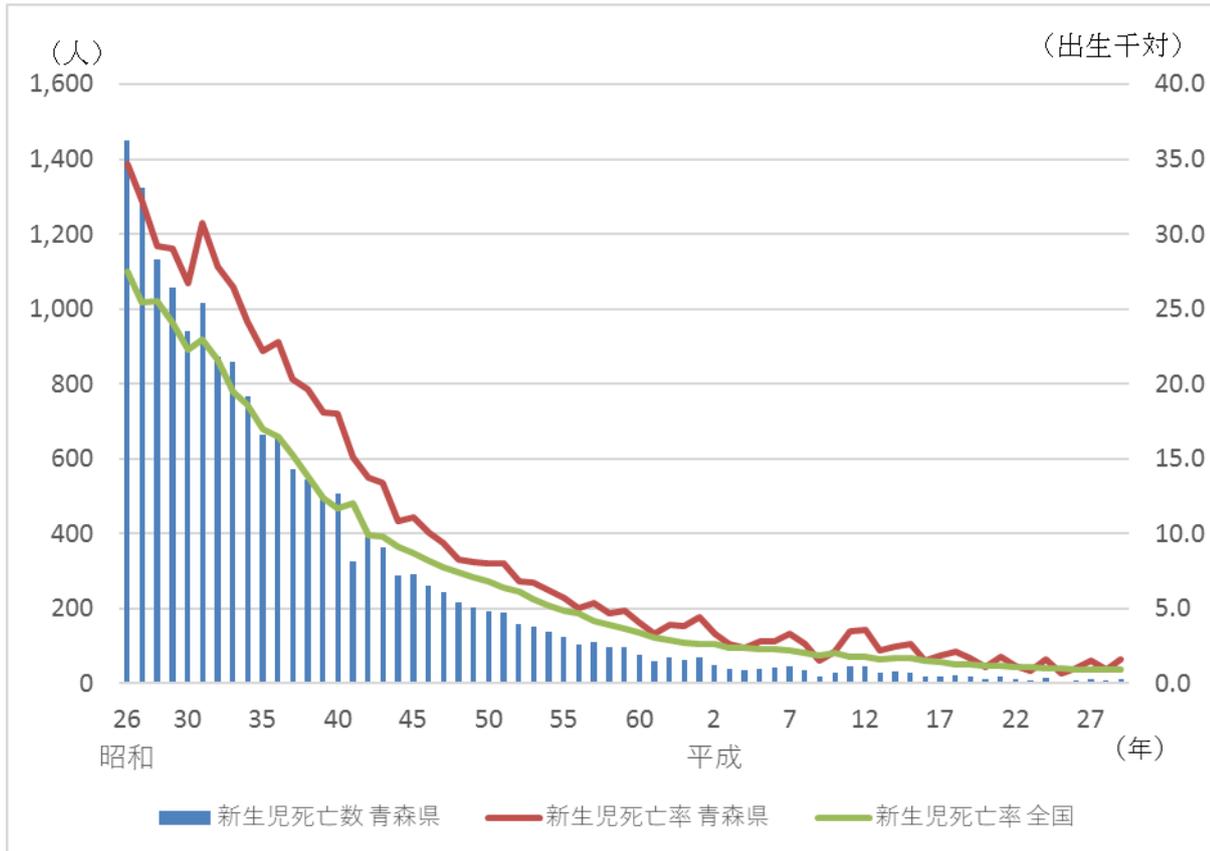


表 6 新生児死亡の内訳の年次推移

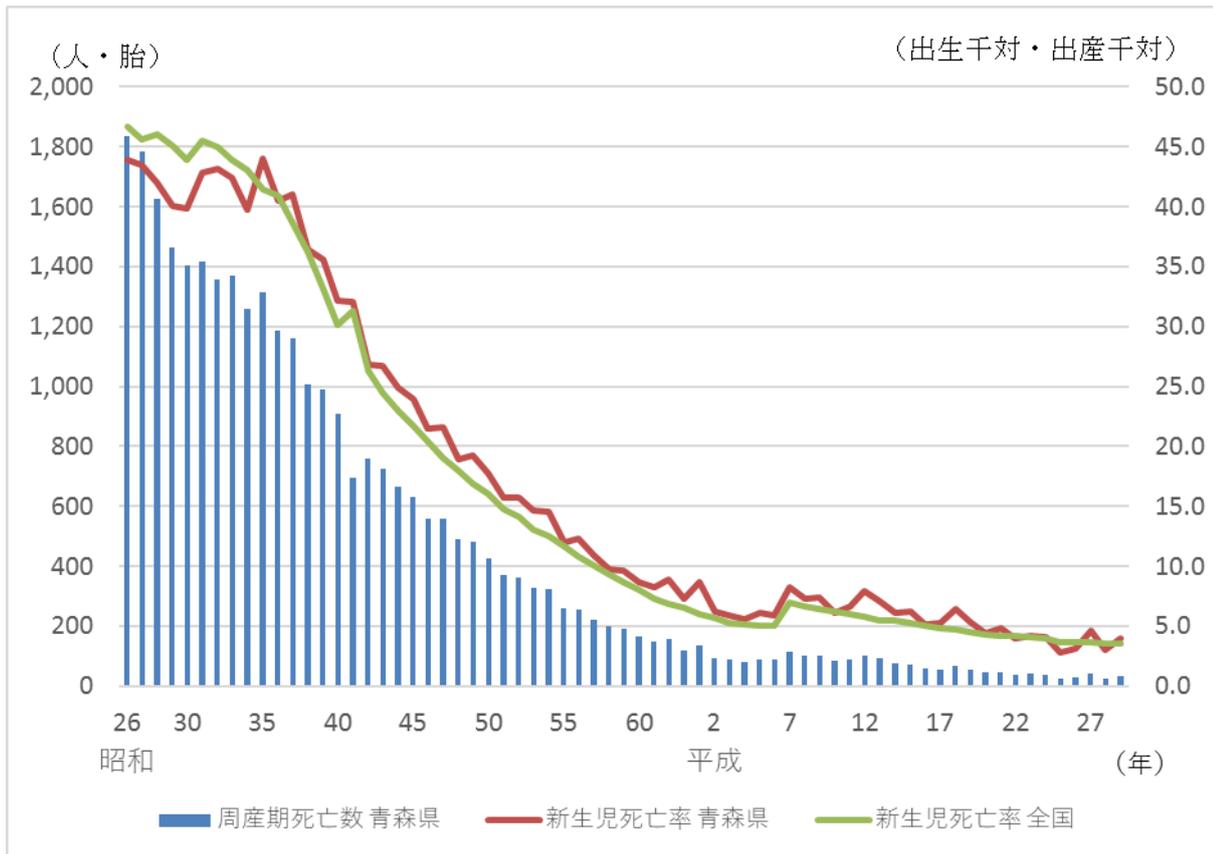
死因の内訳	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
総計	8	15	6	9	13	8	13
周産期に発生した病態	6	10	2	3	7	6	6
先天奇形、変形及び染色体異常	2	4	4	5	5	2	4
乳幼児突然死症候群	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	1	-	1	1	-	3

(3) 周産期死亡

平成 29 年の周産期死亡数は 32 件（妊娠満 22 週以後の死産 21 胎、早期新生児死亡 11 人）で、前年の 26 件（同 20 胎、同 6 人）より 6 件（同 1 胎増、同 5 人増）増加した。周産期死亡率（出産（出生＋妊娠満 22 週以後の死産）千対）は 4.0 で、前年の 3.0 を 1.0 ポイント上回り、全国の 3.5 を 0.5 ポイント上回った。（表 1）

年次推移をみると、年々減少・低下傾向にあり、近年も緩やかに低下している。（図 9）

図 9 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移



※ 周産期死亡については、死亡数、死亡率の算定方法が平成 6 年以前と平成 7 年以降では異なっている。

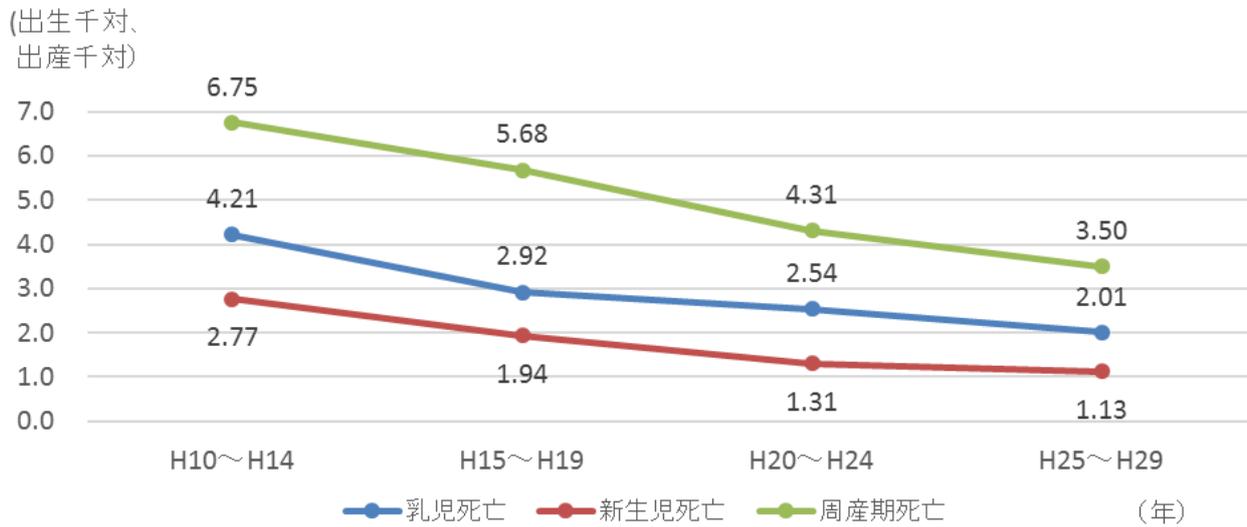
	死亡数	死亡率
平成 6 年以前	妊娠 28 週以後死産 ＋早期新生児	出生千対
平成 7 年以降	妊娠 22 週以後死産 ＋早期新生児	出産千対（出生＋妊 娠 22 週以後死産）

(4) 5か年比較

乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡とも対象数が少ないため実数1件の増減による死亡率への影響が大きいことから、それぞれの死亡率を5年単位で比較すると、いずれも低下傾向にある。

(図10)

図10 乳児死亡率・新生児死亡率・周産期死亡率の5か年比較（年次推移）

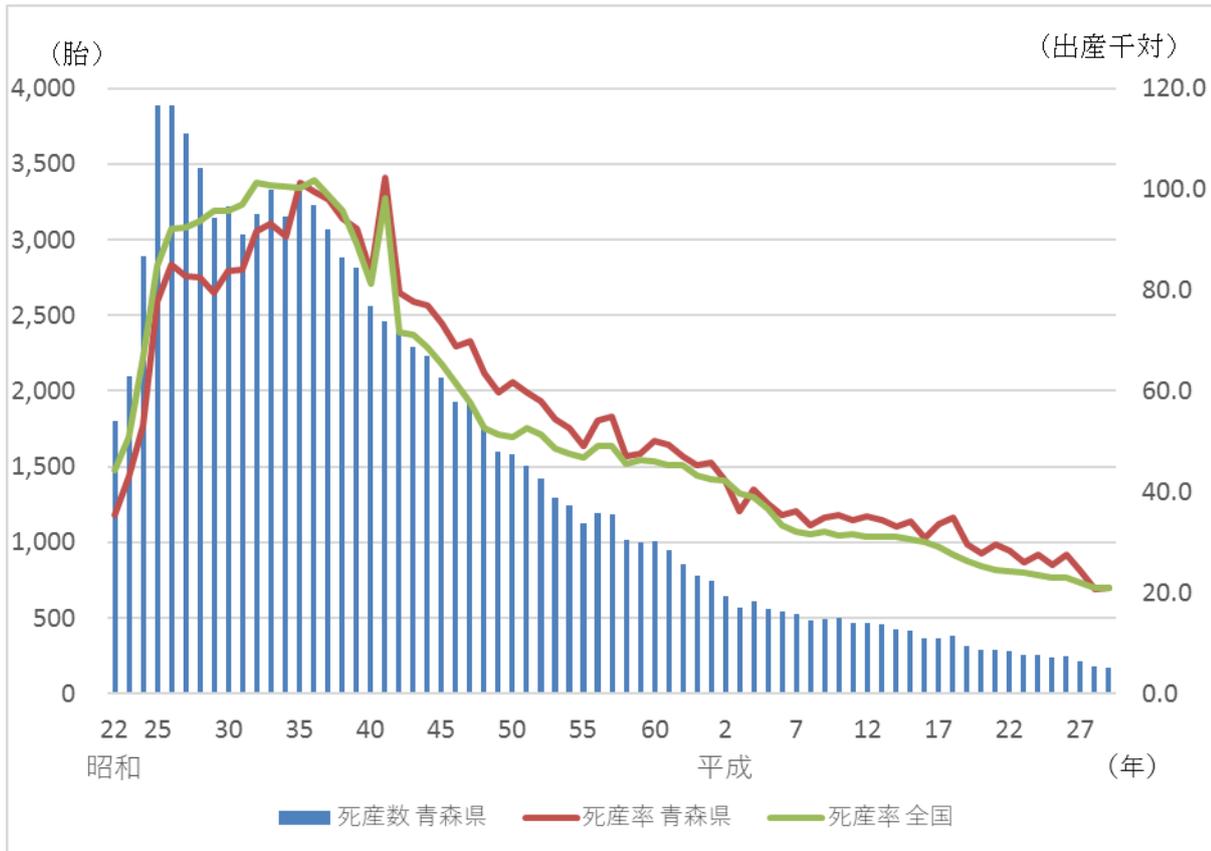


#### 4 死産

平成 29 年の死産数は 173 胎（自然死産 81 胎、人工死産 92 胎）で、前年の 183 胎（同 81 胎、同 102 胎）より 10 胎（同増減 0、同 10 胎減）減少した。死産率（出産（出生＋死産）千対）は 21.1 で、前年の 20.8 を 0.3 ポイント上回り、全国の 21.1 と同率となった。

年次推移をみると、死産数は昭和 25 年をピークに減少傾向にあるが、死産率は昭和 35 年をピークに減少に転じ、昭和 41 年（ひのえうま年）には急激時上昇したが、その後は減少傾向が続いている。（図 1 1）

図 1 1 死産数及び死産率の年次推移



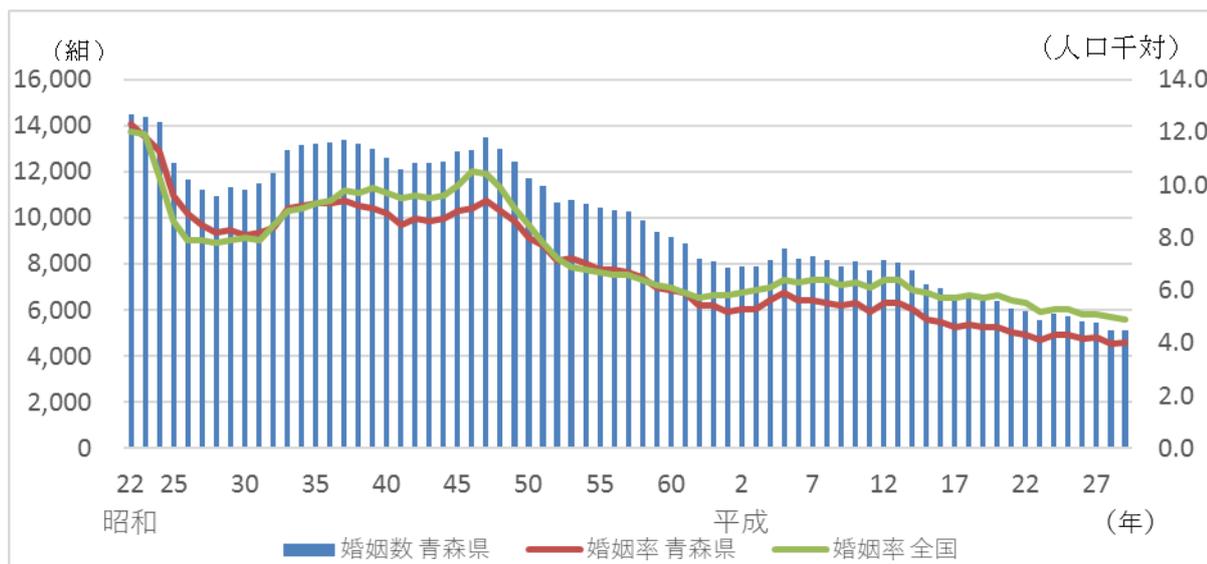
## 5 婚姻

### (1) 概況及び年次推移

平成 29 年の婚姻件数は 5,122 組で、前年の 5,135 組より 13 組減少した。婚姻率（人口千対）は 4.0 で、前年の 4.0 と同率であり、全国の 4.9 を 0.9 ポイント下回った。

年次推移をみると、昭和 25 年以降横ばいで推移していたが、昭和 47 年以降減少・低下傾向を示している。（図 1 2）

図 1 2 婚姻数及び婚姻率の年次推移

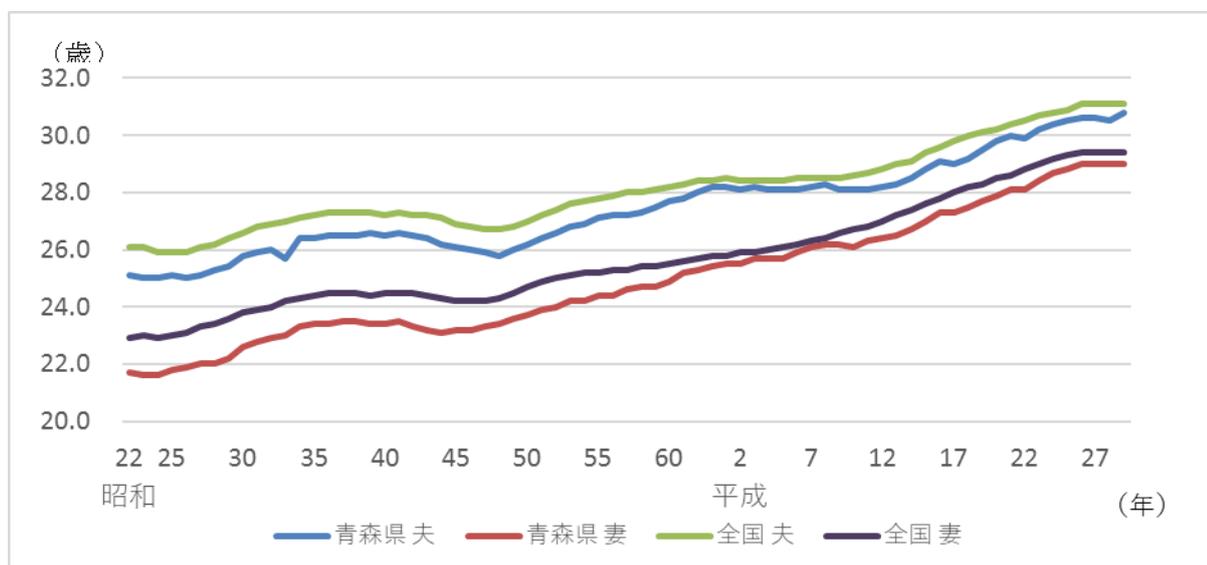


### (2) 平均初婚年齢

平成 29 年の平均初婚年齢は、男性が 30.8 歳（全国 31.1 歳）、女性が 29.0 歳（全国 29.4 歳）で、男性は前年の 30.5 歳（全国 31.1 歳）を 0.3 歳上回り、女性は前年の 29.0 歳（全国 29.4 歳）と同値であった。（図 1 3）

年次推移をみると、男女とも年々上昇している。

図 1 3 平均初婚年齢の年次推移



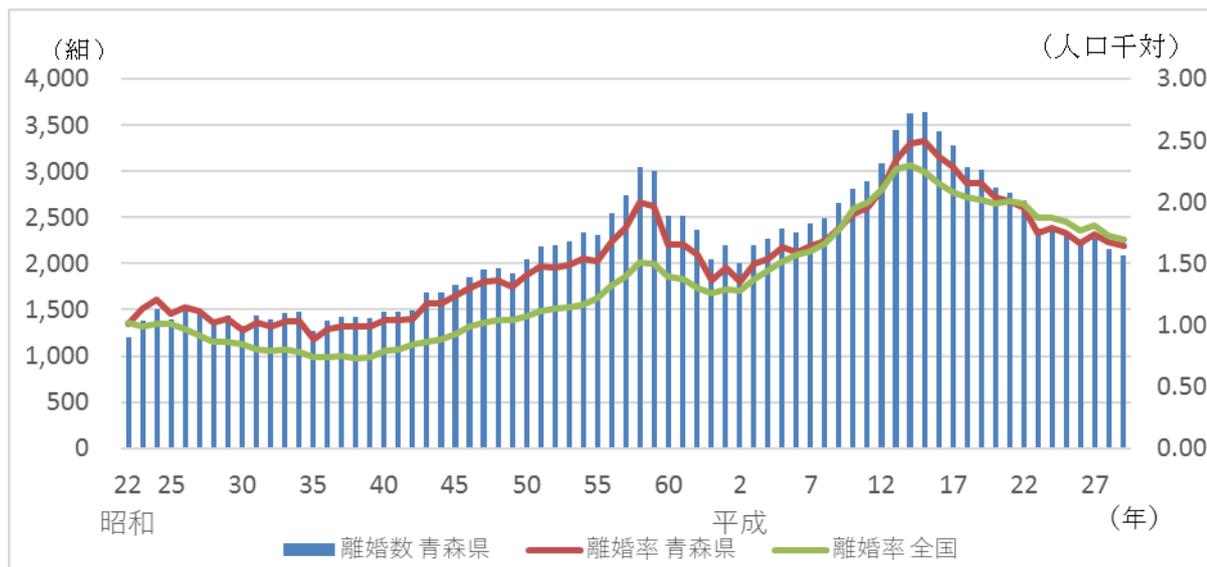
## 6 離婚

### (1) 概況及び年次推移

平成 29 年の離婚件数は 2,092 組で、前年の 2,164 組より 72 組減少した。離婚率（人口千対）は 1.64 で、前年の 1.68 を 0.04 ポイント下回り、全国の 1.70 を 0.06 ポイント下回った。（表 1）

年次推移をみると、戦後横ばい状態が続いたが、昭和 40 年代に入り増加・上昇し、昭和 58 年をピークに減少・低下傾向に転じた。その後、平成 3 年から再び増加・上昇したものの、平成 16 年から減少・低下傾向となっている。（図 1 4）

図 1 4 離婚数及び離婚率の年次推移



### (2) 離婚した夫婦の同居期間

平成 29 年の離婚件数 2,092 件のうち、結婚 5 年未満で離婚した件数の構成比は 33.2%で最も多く、次いで 20 年以上の 21.3%、5～10 年の 19.0%の順となっている。（表 7）

表 7 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	H17 年	12 年	17 年	22 年	24 年	25 年	26 年	27 年	28 年	29 年
0～5 年	36.4	36.7	32.1	29.0	32.8	30.9	31.8	29.8	32.1	33.2
1 年未満	7.1	6.5	5.3	6.1	5.6	6.5	5.1	5.8	4.9	6.2
1～2 年	9.3	8.4	7.3	8.2	6.9	7.9	6.4	7.2	6.4	7.1
2～3 年	8.2	7.7	7.5	6.6	6.6	6.7	6.8	7.7	6.8	7.4
3～4 年	6.1	7.9	6.7	5.7	5.8	6.1	6.0	5.8	6.0	6.9
4～5 年	5.8	6.2	5.3	6.2	6.0	4.6	5.6	5.6	5.0	5.6
5～10 年	19.0	22.4	23.0	22.2	20.6	20.4	22.1	21.3	19.1	19.0
10～15 年	13.2	11.0	13.9	13.7	14.6	14.6	12.3	14.3	13.5	12.2
15～20 年	11.0	8.5	9.9	10.2	10.9	11.3	12.0	11.1	10.6	11.1
20 年以上	18.9	18.1	19.2	20.1	18.0	20.0	19.0	20.2	21.3	21.3
不詳	1.5	3.4	2.0	4.7	3.0	2.7	3.0	3.2	3.4	3.2

## 第2 医療統計の概要

### 1 医療施設

#### (1) 病院

平成29年10月1日現在の病院数は94施設で、前年の96施設から1施設減少した。人口10万対では7.4で、前年から変動なく、全国6.6を0.8ポイント上回った。

年次推移をみると、年々増加していたが、昭和58年の124施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

#### (2) 一般診療所

平成29年10月1日現在の一般診療所数は881施設で、前年の884施設から3施設減少した。人口10万対では68.9で、前年の68.4を0.5ポイント上回り、全国80.1を11.2ポイント下回った。

そのうち、有床診療所は146施設で、前年の157施設から11施設減少し、診療所全体の約16.6% (全国7.1%) となっている。

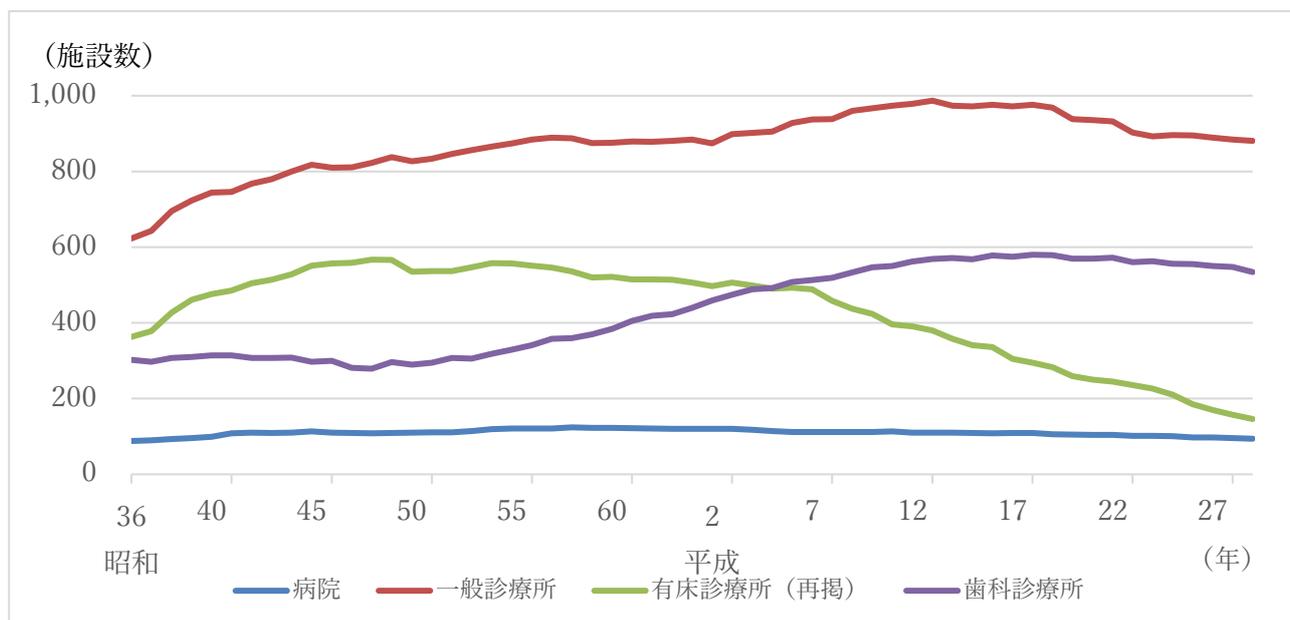
年次推移をみると、年々増加していたが、総数は平成13年の987施設、有床診療所は昭和48年の567施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

#### (3) 歯科診療所

平成29年10月1日現在の歯科診療所数は534施設で、前年の548施設から14施設減少した。人口10万対では41.8で、前年の42.4を0.6ポイント下回り、全国54.1を12.3ポイント下回った。

年次推移をみると、年々増加していたが、平成18年の580施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

図1 医療施設数の年次推移



## 2 医師・歯科医師・薬剤師

### (1) 医師

平成 28 年 12 月 31 日現在の医師数は 2,702 人であり、前回調査の平成 26 年 (2,681 人) から、21 人増加している。また、人口 10 万対では 209.0 であり、前回 (203.0) に比べ、6.0 ポイント上回り、全国 251.7 を 42.7 ポイント下回った。(表 1)

表 1 医師数 (実数、人口 10 万対) の年次推移

(単位：人)

区分		H8 年	10 年	12 年	14 年	16 年	18 年	20 年	22 年	24 年	26 年	28 年
青森県	医師数	2,432	2,487	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639	2,681	2,702
	人口 10 万対	164.0	168.3	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9	195.5	203.0	209.0
全国	医師数	240,908	248,611	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268	311,205	319,480
	人口 10 万対	191.4	196.6	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8	244.9	251.7

### (2) 歯科医師

平成 28 年 12 月 31 日現在の歯科医師数は 762 人であり、前回調査の平成 26 年 (780 人) から、18 人減少している。また、人口 10 万対では 58.9 であり、前回 (59.0) に比べ、0.1 ポイント下回り、全国値である 82.4 を 23.5 ポイント下回った。(表 2)

表 2 歯科医師数 (実数、人口 10 万対) の年次推移

(単位：人)

区分		H8 年	10 年	12 年	14 年	16 年	18 年	20 年	22 年	24 年	26 年	28 年
青森県	歯科医師数	708	730	717	758	757	777	789	781	787	780	762
	人口 10 万対	47.7	49.4	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3	59.0	58.9
全国	歯科医師数	85,518	88,061	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551	103,972	104,533
	人口 10 万対	67.9	69.6	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4	81.8	82.4

### (3) 薬剤師

平成 28 年 12 月 31 日現在の薬剤師数は 2,210 人であり、前回調査の平成 26 年 (2,111 人) から、99 人増加している。また、人口 10 万対では 170.9 であり、前回 (159.8) に比べ、11.1 ポイント上回り、全国値である 237.4 を 66.5 ポイント下回った。(表 3)

表 3 薬剤師数 (実数、人口 10 万対) の年次推移

(単位：人)

区分		H8 年	10 年	12 年	14 年	16 年	18 年	20 年	22 年	24 年	26 年	28 年
青森県	薬剤師数	1,422	1,519	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052	2,111	2,210
	人口 10 万対	95.9	102.8	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0	159.8	170.9
全国	薬剤師数	194,300	205,953	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052	288,151	301,323
	人口 10 万対	154.4	162.8	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6	226.7	237.4